す。子熊の孝心あふるゝ行動は子ども達にきつと強い感動を起させる事でせう。私達は子熊の心事に同情し、その氣持になりきつてお話致しませう。誠心は自づと其の中にこめられ、話しぶりも緩急よろしきを得て一層の感動を與へるに違ひありません。

「笑ひ話」 牛と狐が宿屋に泊り、翌朝出立の時宿屋の人に又どうぞと云はれて、モウコン、と答へた等の二三の笑ひ話を新しい談話集に擧げてみました。かうした種類の簡單なものはこども達も良く知つて居ります。そして是等を話させる事はこども達の發表力を養ふ上に效果があります。氣が小さくて大勢の前では中々發表しない子どもも、二三笑ひ話を聞かせると元氣に手を擧げて話したがります。談話は保姆が一方的に語り聽かせる許りでなく、こども達の方からも話させるものだといふ建前から、笑ひ話等はその入門として丁度よろしいと思ひます。又、**なぞ〳〵**もかうした目的の爲に都合のよいものです。こども達ははじめはなぞなぞとして良く知られてゐるものを發表しますが、其の中に自分で考へたものを發表する樣になります。夫れは始めは不完全であつても、相手に分らせる爲にはそものゝ特徴を充分捉へねばなりませんので、さうした物の見方を養ふ上にもよろしい樣に思はれます。

「お天陽樣と風の力くらべ」 有名なイソップの寓話。之は述べるまでもなく、旅人の外套を脱がす事について、太陽と北風が競爭したお話です。イソップの寓話は簡潔、直截で、私達の感情にぢかに訴へる爲、尊ばれて居ります。此の寓話に含まれてゐる教訓は、風の身の程知らずでせうが、だからといつて風は愚かだと感じさせるより、何かほゝゑましいものを與へます。風が眞赤になつてふう〳〵吹いてゐる所を想像致しませう、そのあとで、お日樣がニコ〳〵なさる所を心に描きませう、何だか身體までもあたゝかくほか〳〵する樣なお話です、淡い乍らもお日樣の偉さに對する今更ながらの驚きが心のどこかに殘つてゐて。

手技

及川ふみ

前月號に幼兒たちに出來る模樣かきについて、その模樣の材料の實際の取扱ひ方を述べたのであるが、それに續いて模樣の單位となる材料について考へて見たい。

模樣の單位はやはり幼兒たちの親しみの深いもの、又興味の多いものがよいのは云ふまでもない。又季節のものといふ事も考へられる。みかん、はね、風船、なんてん、など二月の季節の材料として選ばれてよいものであらう。又最も幼兒たちに親しみの深い動物類や、おもちやはいつの季節でもよいものである。

飛行機、お人形、戰車、軍艦など、もつとも幼兒たちの喜ぶものであらう。

模樣の單位を作るのには始めは平面的のものがよい。形の單位が大體同じ型であるのが模樣であるから、木の葉などの如く平面的の材料である場合は最初の時には實物をそのまゝ引き寫しをさせると幼兒たちは大喜びで手輕にするのである。立體的の木の實やおもちやなどは平面のものゝ樣に實物をそのまゝにしき寫しが

出來ないのであるから、ボール紙などに一つの型をつくらせて、それを適當に配列させるのである。

自分で選んだ材料を自由畫で畫かせて、これを適當に切りぬかせて、ボール紙で裏うちをさせて型をつくらせるのである。

畫用紙などにあらひ方眼を作つておいて、その中に型をそれぞれおさめてゆくのである。

模樣の單位が出來て、その配列を適當にして模樣が出來るので簡單にそれだけでもよいわけであるが、その上に更に色をぬらせる事によつて一層模樣らしくなるのである。

幼兒たちの選ぶ配色はごく簡單ではあるが又そこに大人には味ふことの出來ない幼兒らしさの味のある配色が出來るのである。

模樣は模樣の單位になるものが選ばれて型を作り、その型を配列し、さらにそれに色をぬるといふ樣に幼兒たちの仕事としては相當連續した仕事の樣であるから時間も相當にかゝり頭も使つてしなければならないのであるから一時の仕事の分量は少くして、充分に考へる餘地を作つたり、又仕事を丁寧にして型をつくる事、その型を次々と置きながら畫く事など出來るだけ丁寧にする事などに特に注意しなければならないのである。ことに色ぬりは出來るだけ分量を少くして、折角の模樣を損じない樣にぬる事が大切である。

出來上つた模樣はボールの空箱を利用して紙ばさみに作つたり、お人形の着物にしたり或は手提かばんの材料にするなどいろいろと幼兒たちに直接役に立つものとして利用するのが最も適切なことである。これによつて次にする仕事にも興味を深くすることにもなるのである。

誘導保育

菊池ふじの

スキー場　二月、外は一面の銀世界です。とは言つて見たものの、東京に住んで見て思ふことは、何と淡い雪の生活でせう。一年に多くて四五度の大雪があるか無しの有樣、まして四國、九州と考へて見ますと、遙か南の暖國には、この課題は、子供の日常生活とは餘りにもかけ離れたものであるとも思はれます。そこはよろしいやうに。繪にでもよつて、話しながら、想像しながら、致しませうか？東京では丁度この課題がよつてもつて出て來る所以かも知れません。つまり、外が、來る日も來る日も銀世界、人は皆雪靴で、膝をも沒する雪を踏み分け踏み分け往來してる北國では、わざ〳〵室内にこの課題を設けるまでもなく、外で雪合戰にスキーに雪釣りに、竹馬で雪靴で、十二分にほんたうの雪の生活が滿喫出來るのですから。その點この課題は、東京には丁度いいのでせう。つまり大雪が三四度あつて、幼い子供にも大雪のどうであるかを想像させ得る目の材料を充分に與へられるわけですし、それかと言つて、實際の雪の生活はさう滿喫とまではゆかないのですから。それに近來は、運動といふことも盛になり、スキー位の言葉を知らない子供も無いぐらゐです。

砂箱があつたらそれを用ひて致しませう。砂でもつて大體の土臺を拵へて置きます。つまり一端を山、他端に向つて傾斜をつけ